日本大学法学部

校友会報

www.nichidai-h-koyukai.com

vol.59
2020年12月15日発行

NIHON UNIVERSITY
COLLEGE OF LAW
KOYUKAI
2020

02-03　ごあいさつ
04-05　日本大学理事長、学長メッセージ
06-10　[PICK UP! インタビュー]
自由民主党選挙対策委員長
山口泰明議員 ほか
11　神奈川県支部設立 インタビュー
12-13　[3.11を忘れない]
震災から10年で起きた変化
14　総会・懇親会 お知らせ＆報告
15　サークルNOW／ゼミ探訪
19　GO TOニチホウ応援キャンペーン
年間活動記録／役員紹介 ほか
20　Bリーグチェアマンに就任
島田慎二さん

日法OB SPORTS INFO

新聞学科OB

島田慎二さんが「Bリーグ」のチェアマンに就任!!

プロバスケットボールリーグ

7月1日、プロバスケットボールリーグ「Bリーグ」のチェアマンに、新聞学科OBの島田慎二氏が就任しました。

Bリーグは2015年に、それまで並立していたバスケットボールのトップリーグ「NBL(ナショナル・バスケットボール・リーグ)」と「b.jリーグ(日本プロバスケットボールリーグ)」を統合する形で設立されました。現在36クラブがB1・B2の2部に分かれて試合に臨んでいます。

島田氏は1970年新潟県生まれ。日大山形から法学部新聞学科に進み、1992年に卒業後、旅行会社のマップ・インターナショナル(現・エイチ・アイ・エス)勤務などを経て、2010年にコンサルティング会社「リカオン」を設立。2012年に千葉ジェッツを運営する株式会社ASPE(現・株式会社千葉ジェッツふなばし)の社長に就任しました。

2017年に「Bリーグ」の理事と副理事長(バイスチェアマン)も歴任し、今回、前チェアマンの大河正明氏の後を継ぐ形でのチェアマン就任となりました。

千葉ジェッツふなばし社長時代には、経営が苦しかった弱小チームを、成績はもちろん、売上高も入場者数も日本一に押し上げた島田氏の経営手法は高く評価されています。

今後のプロスポーツ界でのさらなる活躍に期待です。

陸上競技部特別長距離部門

第97回箱根駅伝 本戦出場ならず 全日本大学駅伝は14位に終わる

10月17日、第97回東京箱根間往復大学駅伝競走(箱根駅伝)の予選会が、東京・立川市の陸上自衛隊立川駐屯地の周回コースで行われました。

新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、今回は立川市街地と国営昭和記念公園をコースに含まず、無観客で、立川駐屯地内の周回コースを、ハーフマラソンの距離(21・0975㎞)を走って争われました。

冷たい雨が降りしきる中、3年連続の本大会出場を目指した本学でしたが、10時間43分14秒の18位に終わりました。

11月1日に行われた秩父宮賜杯 第52回全日本大学駅伝対校選手権大会(愛知・熱田神宮～三重・伊勢神宮、8区間・106・8㎞)にも出場したものの、5時間20分41秒の14位だった本学の陸上競技部特別長距離部門。

6月に本学OBで、関東学生陸上競技連盟(関東学連)前会長の青葉昌幸氏が監督に就任し、名門復活が期待されましたが、今年はかないませんでした。

vol.59
発行日　2020年12月15日
発行者　日本大学法学部校友会会長　廣田健史
発行所　日本大学法学部校友会
住　所　〒101-8375　東京都千代田区神田三崎町2丁目3-1
tel.03-3261-9274　fax.03-3222-3567
編集人　日本大学法学部校友会 会報編集委員会 清家 愛／渡辺崇文

今号は、新型コロナウイルスの影響により、例年よりページ数を4ページ減らして発行いたしました。ご了承ください。このような中、取材等にご協力いただいた皆様にこの場をお借りして、感謝申し上げます。ありがとうございました。

日本大学法学部校友会 会報編集委員会

日本大学法学部校友会 会長

廣田 健史

Kenshi Hirota

年初から始まった厳しいコロナ禍の中ではございますが、校友の皆様におかれましては、ご健勝にてお過ごしのことと拝察申し上げます。

日頃より大学、法学部校友会に対しまして格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

世界中の人々は、未だ解決できない未知のウイルス感染症により、自由な行動を制限され、これから冬の寒い時期に向かって第3波の懸念も高まりつつあり、先が見えない状況です。

かつて先人の学者が数々の感染症と戦い、打ち勝ってきた歴史を振り返れば、いつかきっと人類の英知を結集し、新型コロナウイルスを克服できると信じています。

学生の皆さんも大学に行けず、自宅でのリモート授業で友人にも先生方にも直接会うことが出来ない、正に非常事態です。

大学もこの状況を改善すべく苦慮していますが、来春には少しずつ正常化に向かうことと思います。

この新型コロナウイルス感染症のほか、地球温暖化による自然災害などにより、日本を含め世界中の経済が大きな打撃を被っており、一部の企業を除き、特に飲食、宿泊業の厳しい状況が伝えられていますが、ほぼ全ての業種に影響が及びつつあります。

感染拡大防止のため、様々な分野で行われる各種のイベントは自粛や中止となり、大学におけるイベントも同様で大変困っています。

法学部校友会総会も、皆様の理解を得ながら、三密を避け規模を縮小して実施し、新年度をスタートすることが出来ましたが、今年は現役学生の諸君と交流出来ていないので、誠に残念です。

２０１９年10月４日、日本大学創立１３０周年記念式典・祝賀会を挙行し、これまでの実績を基に、これからの10年20年と学生諸君の成長を支え、未来を見据えた大学づくりを行い、選ばれ続ける総合大学となることを表明しました。

ところが今年に入り、コロナ禍により世の中は一変してしまいました。

このような災禍は何時でも起こりうることと捉え、前向きに考えるしかありません。

校友の皆様には、是非ピンチをチャンスに変えるよう工夫し、友情の絆を深め、助け合い、コロナに負けないよう挑戦をしてください。

校友会はいつも学生ファーストを原点としており、第一に学生、第二に大学、第三に校友のために活動しています。

卒業生による日大力の結集が出来れば、大きな力となり、新しい出会い・縁が生まれることを期待しております。

法学部は小田学部長、白方局長にご指導を仰ぎ、司法日大の復活に着々と邁進しており、成果を期待しております。

最後になりますが、全国校友諸兄の皆様には、今後ともご支援、ご協力をお願い申し上げ、日本大学並びに法学部校友会の発展と、皆様方のご健勝とご活躍を祈念申し上げ、ご挨拶とさせていただきます。

profile 1948年東京都生まれ。71年法学部経営法学科卒業。ヒロタグループ 株式会社環境整備 代表取締役社長。日本大学理事。
日本大学第一中学・高等学校同窓会会長。勝海舟顕彰会会長。

日本大学法学部長

小田 司

Tsukasa Oda

法学部校友会の皆様におかれましては、益々ご清栄のこととお喜び申し上げます。日頃より法学部の教育・研究及び学生指導に対しまして、格別のご支援とご協力を賜り、誠にありがとうございます。この場をお借りして、心よりお礼申し上げます。

今年度、法学部では、様々な新たな取り組みを進める予定でおりましたが、４月７日(火)に政府の緊急事態宣言が発令され、新型コロナウイルス感染拡大による大規模な社会・経済活動の自粛など、予想もしなかった事態に見舞われ、これまでに経験したことがないような厳しい状況の中で新学期を迎えることになりました。

このような厳しい状況の中、法学部では、５月11日(月)から通常より大幅に遅れて前学期を開始し、また学生の皆さんを校舎へ集めて対面授業を行った場合、学生の皆さんの健康と安全を保障することが極めて困難であることなどを考慮し、当初予定していた対面授業に代えてオンライン授業を行いました。

オンライン授業を実施するにあたり、パソコンやタブレット端末を用意できない学生へは、法学部がこれらを用意して無償で貸与させていただきました。また、オンライン授業を受講するためには、インターネットに接続できる環境の整備が必要であることから、学修環境を整えるための学修環境補助費として、全学生へ一律３万円を支給させていただきました。

また、新型コロナウイルス感染拡大により経済状態が悪化する中で、法学部では、法学部校友会より１０００万円のご支援をいただき、新型コロナウイルス感染拡大による経済的困窮学生を支援するための奨学金として給付させていただきました。改めまして、法学部校友会の皆様方に心より感謝申し上げます。

４月７日(火)に発令された政府の緊急事態宣言が解除されて以降、様々な規制が徐々に緩和されてきておりますが、東京都では現在も感染が拡大しており、事態の収束は不透明な状況にあります。そこで、後学期の授業実施方法などについて慎重に検討した結果、現在の感染状況を考慮し、学生の皆さんの健康と安全の確保を第一に考えて、法学部では、後学期についても、原則としてオンライン授業を実施することにしました。ただし、ゼミナールなどの少人数の授業の一部や体育実技などは、感染防止対策を十分に講じた上で、後学期から対面授業を行っています。

さて、今年度も、法学部校友会のご支援・ご協力をいただき、様々な企画を立てさせていただきました。しかし、今年度は新型コロナウイルス感染拡大の中、様々な企画を実施した場合、企画にご参加いただいた皆様方の健康と安全を保障することが極めて困難であると判断し、大変残念ではありますが、今年度実施する予定であったホームカミングデーや法律討論会など、多くの企画を中止させていただきました。

なお、毎年10月に実施しておりますマスコミ・メディア就活セミナーにつきましては、今年度、Ｚｏｏｍにより開催させていただきました。現在、マスコミ業界などでご活躍中のＯＢ・ＯＧの皆様から有益なアドバイスをいただき、将来、マスコミ業界などを目指す本学の学生たちにとって大変有意義なセミナーであったと思います。ご協力いただきましたＯＢ・ＯＧの皆様方にこの場をお借りして、厚くお礼申し上げます。

さらに、資格試験合格者などを対象とした褒賞授与式を毎年12月に大講堂で行っておりますが、今年度はＺｏｏｍにより開催する予定です。

新型コロナウイルス感染拡大は、現在も世界全体に広がっており、未だ収束の目途は立っておりませんが、新型コロナウイルス感染症が一日も早く収束し、今まで通り様々な企画を実施できますことを心から願っています。今の状況が収束した後、様々な企画を実施できるように、最大限の努力を持って万全の態勢を築いて参ります。

最後になりますが、法学部をさらに発展させるために、私たち法学部教職員一同は、これまで以上に全教職員が一丸となって教育・研究、学生指導及び学部運営に精一杯努力してまいります。法学部校友会の皆様には、今後ともご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げ、私の挨拶とさせていただきます。

profile 1963年青森県生まれ。87年法学部法律学科卒。90年大学院法学研究科博士前期課程修了、96年ヨハネス・グーテンベルク大学にて法学博士号（Dr.jur）取得。97年国際関係学部専任講師、2001年同助教授、02年法学部助教授、06年同教授。

理事長・学長メッセージ

今秋、田中英壽理事長が再任（5選）、また学長に、加藤直人教授が就任されました。田中理事長からメッセージを頂戴し、加藤学長には、インタビューにお答えいただきました。

日本大学理事長／日本大学校友会会長

田中 英壽

Hidetoshi Tanaka

法学部校友会の皆様におかれましては、ますます御健勝のこととお喜び申し上げます。平素より本学及び校友会の活動に御理解、御協力を賜りまして、心より御礼申し上げます。

さて、7月に開催されました、日本大学校友会役員総会におきまして役員改選が行われ、日本大学校友会会長として6期目の再選を果すことができました。また、9月の日本大学理事会では、学校法人日本大学理事長としても5期目の再選を果たすことができました。これもひとえに、本学並びに校友会の発展のために、これまで私が提唱した様々な改革に、一丸となってご尽力をいただいた皆様方のご協力によるものと感謝申し上げます。

日本大学は、2019年に創立130周年という大きな節目を迎え、今後、150年、20 0年と続く輝かしい未来のために、新たな一歩を踏み出しました。しかしその矢先、新型コロナウイルスの感染拡大により、日本のみならず世界の状況が一変しました。教育現場である大学では、学生のキャンパスへの入構が制限され、対面とオンラインを併用した授業となり、学生の学修状況が大きく変わってしまいました。校友会においても、校友会活動の要である各支部・部会の総会開催を見送るところが増え、今もなお影響を受け続けております。

この不測の状況に、大学としては学生の安全と学修を第一に考え、オンライン授業に必要な学修環境補助費として全学生に対する総額約21億円の支給制度をはじめ、新型コロナウイルスに伴う経済的困窮者に対する総額10億円の奨学金を創設いたしました。また、校友会では準会員である学生を支援するため、学部校友会が中心となり様々な支援を実施しております。

現在の大学の状況といたしましては、学生の学修はもちろん、充実した学生生活を支援するため、各キャンパスにおいて、最大限の感染防止対策を講じたうえで、キャンパスへの入構制限を緩和し、一部対面授業の再開が始まっているところです。

今回の新型コロナウイルスに限らず、自然災害の頻発、社会情勢の急速な変化により、大学、学生のおかれた状況が急変する事象が増えております。これからの大学は、この様な変化に適切かつ迅速に対応できる体制等を整え、どのような状況下にあっても、常に、学生が満足できる学修環境、学修内容を提供できるよう準備しておく必要があります。そのためには、これまで以上に機能的な運営体制を構築し、より盤石な財政基盤を確立して参りますので、法学部校友会の皆様方には引き続き、本学と校友会の更なる発展のため、御支援と御協力を賜りますよう重ねてお願い申し上げます。

profile 1946年青森県生まれ。69年経済学部経済学科卒業。同年より農獣医学部に勤務。73年より保健体育事務局に勤務。99年本学理事。2000年保健体育事務局長。2001年校友会本部事務局長、同本部長、同副会長。2002年本学常務理事。2005年校友会会長（現在6期目）。2008年理事長（5期目）。

日本大学学長

加藤 直人

Naoto Kato

――新型コロナウイルス禍において、大学を取り巻く状況は大きく変化しました。現状と今後について、また、少子化が進む中、入学者確保の対策をお聞かせください。

新型コロナウイルスの感染流行に関し、大学は対面授業もすすめておりますが、主としてオンラインでの授業を展開しております。アンケートによれば、オンライン授業の満足度は高く、先生方の創意工夫による授業展開も高い水準にあります。今後は、感染状況を十分に踏まえながら、慎重に通常授業への復帰を模索していきたいと考えております。

コロナ禍を含め経済的な理由により、東京の私立大学に進学させることが難しい方々に対し、本学では、手厚い奨学金ならびに低廉な学生寮の整備をすすめています。また、本学に入学する最大のメリットである「就職力」の強化にも力を注いでいます。国家公務員総合職を含めた公務員採用者数、高等学校教員採用者数日本一をはじめ、日本を代表する企業への就職も顕著なものがあり、難関資格、たとえば一級建築士や気象予報士試験等にも顕著な成績を収めています。学生に優しい大学、「就職の日大」の実績を全国へ周知できるよう努めていきたいと思います。

――「選ばれる大学づくり」のため、最も重点を置かれていることは何でしょうか？

日本大学は、その建学のときから学生の自立を援助し、かつ学生に寄り添う教育を展開してきました。医学から芸術にいたる多分野を有する本学ならではの教育、研究を展開し、他大学ではなしえない総合的な「学びと研究の共同体」を育成していきたいと考えています。私が法学部在勤時代、二部の学生で熱心に教職科目を学ぶ学生がおりました。仕事をもちながら、将来の夢に向かって努力するのは日本大学学生の伝統です。その学生は努力の甲斐があって某県の採用試験に合格しました。学生の将来の希望をかなえる手伝いを親身をもってすること、これが日本大学伝統の教育であると思います。これらの教育の積み重ねこそが「選ばれる大学」へとつながっていくものと確信いたしております。

――法学部校友会へメッセージをお願いします。

私も法学部に勤務しておりましたので、場合によっては法学部校友会の入会資格があるかもしれません。日本大学法学部は、日本法律学校を源流とする法曹家の育成はもとより、社会科学の総合学部として全国に認知されています。そして、各種公務員、企業、団体で活躍される卒業生も多く、他学部から大きな目標とされています。彼らの就職に際しては、校友会の方々のお力がきわめて大きかったと存じます。校友会の先輩方には、今後ともどうぞ後輩たちにご支援賜りますよう、お願いいたします。

――御自身の学生時代の思い出をお聞かせください。

私は文理学部史学科を卒業しましたが、まだその頃は学内に混乱が残っていた時代で、全学統一の入学式も卒業式もなく、全学集会が開かれているような状況でした。ただ、同級生は勉学に対する意識は高く、東洋史のゼミ生は8名だったと思いますが、そのほとんどが中学・高校教員、大学教員として活躍しています。素晴らしい恩師のもと、好きな勉強が思う存分できたことに心より感謝しています。

――モットー、趣味、お好きな食べ物等をお聞かせください。

モットーという言葉はありませんが、「竹柏勁心（ちくはくけいしん）」という言葉を大事にしています。冬の厳しいときでも、竹や柏は青さを失わずかつ柔軟に対応しています。その竹や柏のように困難な時期でも強い心をもって柔軟に対応できる能力をもつこと、これが私の理想です。

趣味といってよいかどうかわかりませんが、いまから10年ほど前まで、数十年にわたって中国東北部、ロシア極東、シベリア、サハリン等の地を調査で歩いておりました。学術調査として、外国人がまだ二度も足を踏み入れたことのない地を歩くこと、これが私の生きがいでした。私を含め、中国史研究者の「あるある」ですが、うまいまずいは別にして、自ら中華料理を作れる人が多いです。したがって、私の好きな食べ物は中華料理です。とくに大学院生時代に資料調査のために台湾で暮らしていたので、台湾料理はいまでも大好きです。とくにいえば「ミョウガ」以外、とくに好き嫌いはありません。

profile 1951年東京都生まれ。79年大学院文学研究科博士後期課程満期退学。97年文理学部教授。2003～2006年学務部長。2010～2019年文理学部長、理事。2013～2019年副学長。2015～2018年学長の代理・代行者。2019年理事などを歴任。2020年6月5日開催の理事会の議を経て、次期学長に正式決定した。

PICK UP! INTERVIEW

さまざまな分野で活躍する
法学部の卒業生・在学生を
ご紹介します。

Interviewer

廣田健史会長
1971年 経営法学科卒業

水村華子さん
公共政策学科4年

松本菜摘さん
法律学科2年

大熊ちさとさん
法律学科2年

自由民主党 選挙対策委員長に就任

山口（やまぐち） 泰明（たいめい）さん

1973年 政治経済学科卒業

――今年9月に自由民主党選挙対策委員長に就任されました。ご心境、また、現在取り組まれている実務についてお聞かせください。

来年10月が衆議院の任期満了になるので、今回の委員長は間違いなく菅総理のもとで解散が行われます。そういう時期に委員長に指名されたことは、非常に責任があると感じています。

これまで連続5期、組織運動本部長を務めてきました。組織本部長が家作りでいう土台作りなら、選対委員長は躯体作りです。今は、毎週末全国を回っています。責任の重い仕事ですがやりがいがあります。

――長年、党の役職を歴任されています。自民党はどのような党だと思われますか？

簡単に言うと、「金太郎飴じゃない」です。いろんな意見を出し合って何度も議論を重ね、決まれば一致団結して突き進む党ですね。

――コロナで社会不安が広がっています。日本の未来についてどのようにお考えですか？

真面目にコツコツやっている人が認められる社会が基本だと思っています。

どんな相手とも、国家間においても徹底的に話し合う、言うべきことは言う、そして相手を理解することが大切です。

日本は資源がない国ですから、もっと教育レベルをあげていくことも大事だと思います。

――法学部に進んだ理由は？

母方の家系に医者が多かったので、最初は医学部を目指していたんですが、受験に失敗して。もともと政治に興味があったので政治経済学科に進学しました。

――政治家を志したきっかけは？

もともと祖父が埼玉県の旧中山村最後の村長、父が川島町長を務めていたので、政治を身近に感じていました。

また、大学時代に縁あって川越市長選挙、衆・参議院選挙、埼玉知事選などに関わる貴重な機会を得ました。それが政治家を志すきっかけになったと思います。

――どのような大学生活でしたか？

選挙の手伝いで全国各地を飛び回っていたので、大学に行けないこともありましたね。三年生からは鵜沢義行ゼミに所属していました。とても理解のある先生で「卒論は経験した選挙について書けばいい」とアドバイスをしてくださいました。とてもいい出会いでしたね。

サークルは、テニス同好会に所属していました。普段の練習にはあまり参加していませんでしたが、合宿には参加して、仲間とお酒を酌み交わしたのが良い思い出です。今も昔も人と話すことが好きで、人と会うことが趣味ですね。

――最後に、日本大学法学部の学生、校友の方々にメッセージをお願いします。

私は長男を亡くしていますが、皆さんいろいろなことを抱えて生活されています。人生いつ何が起こるかわからないものです。ですから、チャレンジ精神を持って何事にも取り組んで欲しいですね。

日大二高の興水校長（当時）から学んだ、「上見て進み、下見て暮らせ」という言葉を原点に、これからも政治活動を続けていきます。

今後のご活躍を期待しています。ありがとうございました。

2020年10月30日　自由民主党本部にて

Profile

自由民主党　衆議院議員（埼玉10区）
1948年埼玉県生まれ。日本大学第二高校より日本大学法学部政治経済学科へ進学。卒業後、旭川ガス（株）に入社。坂戸ガス（株）、武州ガス（株）取締役に就任。1996年10月衆議院議員に初当選。現在7期。

［現在］党 選挙対策委員長、衆議院 国家基本政策委員会委員
［これまで］党 組織運動本部長（連続5期・在職最長記録を達成）、財務委員長、経理局長、副幹事長、政調副会長、国会対策副委員長など、政府 内閣府副大臣、外務大臣政務官などを歴任。

大学時代、いくつもの選挙に関わった経験が政治家を志すきっかけに――

PICK UP! INTERVIEW

令和元年度 弁理士試験に全国最年少で合格

小山田圭佑（おやまだけいすけ）さん

経営法学科4年
知的財産コース、国際知的財産研究所 弁理士研究室在籍
1998年 埼玉県出身。日本大学豊山高校出身。

――弁理士試験に挑戦したきっかけは？

大学一年生から、就職活動時に自分の武器として使えるように、語学の勉強か資格取得を視野に入れていました。そんな時、大学の講義で知的財産法の存在と社会における知的財産法の重要性を知りました。学生の内から知的財産法を勉強することで他者にはない自分だけの強みになると考え、知的財産法の専門家である弁理士の資格取得を目指しました。

――法学部の資格試験講座を利用されていたそうですが、どのようなところがよかったですか？

弁理士資格を取得するためには通常、外部の予備校に通って勉強する必要がありますが、高額の授業料を払わなければなりません。その点、大学の資格試験講座では、予備校よりもはるかに安価な価格で同程度の講義を受けることができるため、とても良かったです。

講義をしてくださる先生方は、法学部の卒業生で弁理士試験を合格した方々ですので法律の内容はもちろん、先生方が実際に行っていた勉強の仕方や問題を解くコツなど、親身になって教えてくださったおかげもあって、試験に合格できたと思います。

――大学の講座以外にはどのような勉強をされていましたか？

講座は週に3日ありましたが、講座のない日は、1日5～6時間勉強していました。

講義の復習、問題演習を中心に行っていました。

――弁理士試験の勉強で行き詰まることはありましたか？

ありました。問題を解いて分からない箇所があれば、解答を見て理解し、一度間違えた問題は二度と間違えないように復習をしっかり行っていました。

――大学卒業後はどのような方向に進みたいと考えていますか？

特許事務所で特許業務、商標業務に携わりたいと考えています。グローバルに活躍できる弁理士になりたいです。

――法学部での4年間はどのような大学生活でしたか？

サークルはＬＥＧＧＥというフットサルサークルに所属しておりました。ゼミは加藤浩ゼミに所属し、知的財産法について学んでいます。コロナウイルスの影響で、今までとは異なることも多く、大変ですが、充実した大学生活が過ごせています。

PICK UP! INTERVIEW

ミュージシャン、日大職員を経て司法試験に合格

高倉久弥（たかくらひさや）さん

2010年 法律学科卒業
最高裁判所　司法研修所　第73期司法修習生
1983年 福井県出身。県立丸岡高校出身。

ゼミの担当教授 清水恵介（しみずけいすけ）教授

1972年東京都出身。都立忍岡高等学校。日本大学法学部法律学科卒業。
弁護士。1999年から本学で教鞭を執り，2009年から教授。
専門科目は民法（主に，担保法，成年後見法）

――高校卒業後、ミュージシャンを目指し専門学校に通っていた高倉さん。その後、音楽を辞め、23歳で大学に入学しました。

高倉　司法を目指したのは映画やドラマの影響です。法律家って自分の主張を通すイメージ、思春期特有の奢りでそれなら出来そうだな、と。大きな誤解でした。清水ゼミを選んだのは、司法試験を目指している人が集まっていたからでした。

清水　卒論が面白かったよね。テーマが、高倉くんの地元・福井の事例で、現場に行って写真を撮って検証していた。こういう卒論は歴代見てもなかなかないよね。

高倉　偶然選んだテーマが、地元の福井の事例だったので、やる気が出ました。

清水　ロースクール修了から5回目の司法試験挑戦で、失権した時に、ちょうど法学部の司法科研究室の職員募集があって推薦したんだよね。

高倉　２０１６年10月から働き始めました。失権してすぐだったので、働きながら現実がわかってきて…どんどん絶望していきました。約一年働いた後、「のたれ死んでも良い」という気持ちで退職しました。一日約12時間勉強し、翌年予備試験に合格し、翌々年36歳で本試験に合格しました。合格までに約10年かかりました。

清水　ここまで波乱万丈な人はあまりいないよね。途中で辞めてしまう人も多い。有言実行ですごいなと思ったよ。

高倉　落ち続けていた時は出来もしないのに完璧を目指そうとしていました。トップで合格した人の答案でなく、真ん中より少し下くらいで合格した人の答案を分析して、お手本にするようにしました。分かるところで点を取ろうと、コツを掴んだと思います。

清水　これまでの経験を生かしてこれからも頑張ってね。

高倉　弁護士として知的財産や著作権の分野でアーティストを支えていきたいと思います。

PICK UP! INTERVIEW

女子バレーボール部 期待のミドルブロッカー

髙橋（たかはし） 蒼未（あみ）さん

公共政策学科1年
女子バレーボール部所属　身長186cm
1983年 山形県出身。県立米沢中央高校出身。

――バレーボールを始めたきっかけは？

3歳上の兄がやっていて、自分もやってみたいと思い、小学4年生の時に山形県寒河江市のスポーツ少年団で始めました。

――日本大学バレー部の雰囲気はどうですか？

全員が一丸となって目標に向かって戦い抜くチームです。

――現在コロナ禍でどのような練習をしていますか？

コロナウイルスの影響により、一時期部活動を自粛していましたが、ｗｉｔｈコロナの新生活で感染予防を十分に行いながら、次の秋季リーグ代替試合と全日本インカレに向けて頑張っています。

――得意とするプレーは？

自分の高さを生かした速攻です。

――高校時代に、全国大会やＵ－18日本代表を経験していますが、そこで得たものはどのようなことですか？

トップレベルのチームと戦ったことで、いい経験をすることができました。特に、海外選手のレベルの高さを実感しました。

――バレーボールの面白いと思うところを教えてください。

いくら一人ひとりが高い技術や身体能力を持っていても、チームワークが良くなければ勝てないところです。

――これから強化していきたい部分はありますか？

自分の高さを生かしたプレーをもっと強化していきながら、パワーもつけていけるようにしたいです。

――日本大学法学部公共政策学科を選んだ理由は？

将来、地方公務員になりたいと考えています。法律、政治・経済、行政、ジャーナリズムなど、さまざまな分野の専門知識を、学科の枠を超えて学べると思い、法学部を選びました。

――どのような大学生活を過ごしたいですか？

将来の夢を叶えるために、勉学に励みながら、勉強とバレーボールを両立し、充実した大学生活をおくっていきたいです。

神奈川県支部が発足しました。

2019年11月に神奈川県桜法会が、法学部校友会神奈川県支部（桐ヶ谷政行支部長）として新たに発足し、2020年6月27日に行われた平成31年度法学部校友会総会にて正式に支部として承認されました。

川田幹事長に神奈川県支部の活動や今後について伺いました。

支部長
桐ヶ谷 政行さん
1982年法律学科卒業

幹事長
川田 智志さん
1982年法律学科卒業

――一年間を通して、主にどのような活動をされていますか？

春に会合を兼ねた懇親会を開いています。夏から秋にかけては神奈川県内の観光地を巡るレクリエーションを開催します。そして秋に総会を行っています。

――支部のメンバーはどのような方が多いですか？

平成卒業で、現役で働いている方から、すでに現役を退かれた方まで、幅広く加入されています。

職種も会社員、公務員、自営業、教職員と幅広く、弁護士、税理士や議員の方も多く参加されています。

――支部の雰囲気を教えてください。

年齢や業種も様々な人が集まっている中で、皆さん本当に和気あいあいという雰囲気です。

――会員は何名ほどいらっしゃいますか？

１４０名ほどです。

――会員を増やすためにどのような対策を行っていますか？

会員の方からご紹介を受ける場合、また、様々な場面で神奈川県と関係のある法学部出身者と出会ったときにお誘いする場合、校友会神奈川県支部に入会を希望される中で法学部出身の方をご紹介いただく場合など、常に当会と関係が持てる方はお誘いするようにしています。

今後、若い方の校友会への参加を促進していきたいと思っています。

――法学部校友会、他支部との交流はありますか？

法学部校友会とはもちろん桐ヶ谷支部長はじめ親しくさせていただいておりますが、校友会神奈川県支部や東京、神奈川にある地域支部とも交流をはかっています。

神奈川県支部　令和元年度設立総会

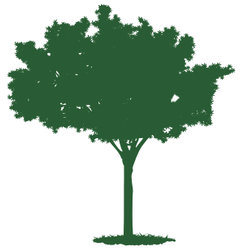
――最後に、これからの目標や抱負をお聞かせください。

神奈川県に関係のある法学部出身者で、法学部校友会神奈川県支部があることを知らない人も多いと思います。ですので、まずはそのような方々へ当支部の認知度を高め、新しく参加していただくことをはかっていきたいと思います。

――ありがとうございました。神奈川県支部の益々のご発展をお祈りしています。

箱根駅伝での応援の様子

震災からの10年で起きた変化
～大切な人の命を守るために～



東日本大震災から、来年で10年になります。今回は、この10年を振り返り、震災を機に、あるいはこの10年で変わったこと、そして今後起こりうる大地震など災害に向けて必要なことについて、NHKで長年災害をテーマに取材している加藤大和さんにお話しいただきました。

NHK報道局
ネットワーク報道部 副部長
加藤 大和さん
2001年 政治経済学科卒業

リスクの考え方の変化

〝3・11〟のあの日、日本では起こりえないだろうと言われていたことが相次いで起こりました。地震の規模を示すマグニチュード（M）9・0の大地震、北海道から九州・沖縄まで全国の沿岸への津波警報・注意報の発令、原子力発電所で核燃料が溶け出し放射性物質が外部に漏れ出す「メルトダウン」――どれも日本初のことでした。「想定外」という言葉がこの頃流行ったのを覚えている人も多いと思いますが、この3・11を機に「想定外のことも想定した災害対策を講じなければならない」と言われるようになりました。災害のリスクの考え方が変わったのです。従来は災害で起こりうると考えられる想定に対して、どのように対応していくかを議論していました。しかし、少なくとも科学的に考えられる最大のリスクについても考えて災害対策が検討されるようになりました。南海トラフ巨大地震や首都直下型地震など、発生の可能性が高いとされるM7クラス以上の大地震に対してどのような対策が必要か、本格的に議論をされるようになったのは、この頃からです。

また、被災した自治体から要請を待たずに、食料や仮設トイレなどの支援物資を送り届ける「プッシュ型支援」が行われるようになったのも、東日本大震災で被災者に対して迅速に支援が行き届かなかった経験があってのこと。2016年の熊本地震から本格的に行われています。余剰が出たり、本当に必要な物資が届かなかったりという課題も浮き彫りになりましたが、災害発生直後の緊急支援の手法の一つとして確立されつつあります。

今後起こりうる大地震や風水害にどう備えて、自らの命を守るか。そして、万が一災害が発生した場合に自分の命をどのようにして守り続けるか――東日本大震災の後、それぞれのフェーズで防災対策について考えられるようになったと思います。

積極的な情報発信

3・11からの10年で変わったこととしては、国も、国民一人ひとりも、情報発信に積極的になってきたということも挙げられると思います。特に、気象庁や環境省などの国の機関が、災害時に避難を呼びかけることや熱中症予防情報を出すことになるとは、10年前までは考えられませんでした。大型の台風上陸時に、不要不急の外出を控え、命を守る行動を取るように気象庁自らが呼びかけることは、10年前は記憶が風化し始めているだけでなく、災害を自分事としてとらえにくい人も未だに多いと感じています。

NHKではヤフーと共同で、2019年の台風19号の上陸・通過の際、ユーザーが検索サイトで「ハザードマップ」を調べたタイミングはいつが多かったのか調べました。10月12日朝には静岡県などが暴風域に入り、同日夜に台風が上陸しましたが、調べた結果、上陸する半日前に微増し、その後特別警報が相次いで発令され、気象庁が会見をした後に急増したのです。それにより東京都などの自治体のサーバーがダウンしてホームページを見られなくなり、必要な情報を入手できなかった人がいたとみられます。気象庁は上陸する2日前には会見を開き、ハザードマップを見て備えておくようにと注意を呼びかけていました。しかし、台風上陸前にアクセスした人はごくわずかでした。

自分事として捉えるといっても、常に災害のことを考え続けることは難しいと思います。しかし、災害はいつ起こるかわかりません。自分の命、そして両親、子ども、孫など、大切な人の命を災害から守るためには何が必要か。「年に一度くらいはみんなで」「荒天の予報が出た時に」などとタイミングを設定して、災害関連の情報を見たり、ハザードマップを調べたり、家族で話し合ったり、子どもの通学路を一緒に歩いて安全かどうか確認したりしておくとよいと思います。また例えば、普段の食材の買い出しのついでに備蓄用の食料品も購入しておくなど、日ごろの生活の中でできることから取り組んでおくことも一つの方法です。

大切な人を守るために、この記事もまた、防災対策を始めるうえでのきっかけにしていただけるとうれしいです。

幹部との取材の中で助言してもなかなか実現しませんでした。しかし現在、災害時には気象庁が緊急会見を開いて警戒や注意を呼びかけるなど、国が自ら積極的に情報を発信するようになってきました。

私たち国民一人ひとりも、動画や写真を撮影してSNSや動画投稿サイトから容易に発信でき、特に3・11以降は災害発生時に被害の様子や支援の情報などを発信する人が一気に増えました。

自分事として捉えているか

一方で、3・11から10年が経ち、あの日に起きた出来事の後を追いかけたりして報道をし続けています。それはタイミングに意味を持たせたいのではなく、風化させないことはもちろん、その報道が、今後起こりうる災害にどう備えるかを考えるきっかけになってほしいと思っているからです。

NHKが発信する防災情報はこちらでもチェックできます!

◇NHKニュース・防災アプリ

NHKが提供する無料の公式スマートフォンアプリ。最新ニュースはもちろん、現在地や設定した地域の天気予報や雨雲データマップ、避難情報を閲覧できます。また、災害情報や熱中症情報はプッシュ通知でも配信されます。

◇Twitter「NHK生活・防災」

地震や台風、大雨・大雪などの災害に関する情報や、子育てや悪質商法など暮らしに関する情報を提供する、NHKのTwitter公式アカウントです。台風が接近する地域に向けて、その地域の方言を交えた情報が発信されることも。

校友の皆さんの声 募集

次号の「〝3・11〟を忘れない」では、「震災から10年 被災地の"今"REPORT（仮）」と題して、震災被災地の現状についてお届けする予定です。そこで、被災地（岩手・宮城・福島・茨城）在住の校友の皆さんから、10年間で復旧・復興に向けて頑張ってきたことや現状についてのメッセージを募集します。同封のハガキにご記入のうえ、ご投函ください。お寄せいただいたメッセージの一部は「校友からの声」として次号に掲載させていただきます。

2020年度 総会・懇親会は

2021年 5月14日(金)

アルカディア市ヶ谷での開催となります。

多くの方のご参加、お待ちしております。

※この会報に同封のハガキで出欠のご連絡をお願いします。
※新型コロナウイルスの影響などで変更がある場合は、改めてお知らせいたします。予定通り5/14（金）開催の場合にはお送りしませんので、ご了承ください。

総 会 4F 鳳凰　**懇親会** 3F 富士

総 会 17:30～18:30
懇親会 18:30～20:00
議 題
①2020年度 活動行事報告
②2020年度 決算報告・監査報告
③2021年度 活動行事計画（案）
④2021年度 予算（案）

会 費 8,000円（但し、2021年3月卒業生及び在校生は3,000円です）

◎お問い合わせは…… 法学部校友会　☎03-3261-9274

アルカディア市ヶ谷 〒102-0073　東京都千代田区九段北4-2-25
JR市ヶ谷駅下車　徒歩2分／都営地下鉄新宿線 市ヶ谷駅（A1またはA4出口）から徒歩2分／
東京メトロ有楽町線・南北線 市ヶ谷駅（1またはA1出口）から徒歩2分

2019年度 総会の様子

2020年5月15日（金）に予定されていた2019年度総会・懇親会は、新型コロナウイルスの影響により6月27日（土）に法学部本館第一会議室にて、開催されました。懇親会は中止となりました。

法学部校友会神奈川県支部発足に際して
桐ヶ谷政行支部長よりご挨拶をいただきました。

校友 information 司法書士の方々へ

司法書士桜門会　入会のご案内

❶ **会員資格は日本大学を卒業し、または日本大学の関係者にして、司法書士資格を有する者です。**（司法書士桜門会会則第2条）
❷ **会の目的は会員の親睦及び母校の振興に寄与することです。**（会則第3条）
❸ **本会はこの目的を達成するために次の事業を行います。**（会則第4条）
①懇親会等の開催　②会員名簿の作成、管理　③司法書士を目指す学生、卒業生に対する支援　④その他必要とする事業

おかげさまで司法書士桜門会は今年創立10周年を迎えました。また、本部校友会に申請し正式な桜門会として認められました。本来ならばお披露目とお祝いをするところですが、コロナ禍の折、それもかないません。この情勢の中でも同窓司法書士の交流の道を探っていきたいと思っています。ぜひ、ご入会下さい。

司法書士桜門会会長 浅野みゆき
（昭和56年 法律学科卒業）

お手数ですが以下にご連絡を下さい。
E-mail yoshida@yoshida-n.com
FAX 03-6914-2531
司法書士 吉田なつみ（平成19年 法律学科卒業）

お知らせ頂きたい事項
1.お名前
2.事務所住所、事務所名
3.電話番号
4.FAX番号
5.メールアドレス
6.卒業学科
7.卒業年
8.司法書士合格年

令和元年 司法書士桜門会　懇親会
ホテルメトロポリタンエドモントにて開催

サークル NOW

現在、法学部公認団体として活動するサークルを紹介します。

第9回

法桜祭実行委員会

紹介者

委員長
大森 花奈さん
公共政策学科3年

法学部で最大規模を誇るサークル
来年度の法桜祭成功に向けて、準備を進める

私たち法桜祭実行委員会は、日本大学法学部の学部祭である法桜祭を運営しています。今年度は残念ながら新型コロナウイルスの影響により中止となってしまいましたが、例年、11月の開催に向けて、サークル一丸となって活動しています。

活動内容は、ミス・ミスターコンテスト（フェニックスコンテスト）などのメイン企画を担当する企画局や、企画の運営のために企業と交渉する渉外局、この他にもまだまだたくさんの多種多様な部署に分かれており、どの部署も法桜祭を運営するためにはなくてはならないものです。

来年度の法桜祭では、今年度の無念を晴らすことができるよう、オンラインによる企画もいくつか検討しています。

新型コロナウイルス感染を防止しながら、皆さんが楽しめる法桜祭を作りあげていきたいと思います。

法桜祭実行委員会は、例年の在籍人数が法学部で最大規模を誇るサークルです。それだけ規模の大きなイベントである法桜祭が中止となったことで、後輩たちは混乱や来年に対する不安が多くあると思います。新型コロナウイルスがどうなるかわからないという点においては、私もとても不安です。しかし法桜祭を成功させたいという気持ちは、実行委員一同変わりません。

臨機応変に対応しながら、協力し合って来年度の法桜祭を成功させ、少しでも皆さんの心を元気にできたら幸いです。

上／集合写真
下／法桜祭の準備の様子

サークルDATA
［在籍人数］
161名（2019年度）
［活動日］
毎週土曜日
［活動場所］
法学部6号館5階

ゼミ探訪

身近な社会問題に対して、行政の視点から解決策を提言することを目標としています。

第6回

上村 進 ゼミ

かみむら すすむ●1959年生まれ。神奈川県立湘南高校卒業。82年東京大学卒業。内閣官房内閣審議官（行政改革推進室次長）、総務省行政管理局長を経て、2016年から日本大学 法学部教授（慶応義塾大学、学習院大学非常勤講師）

専攻科目：現代行政論
創設年：2017年
卒業生：32名　在籍：40名
ゼミDATA

上村ゼミでは、「現代行政論」に関する研究を行っています。「現代行政論」と聞くと堅苦しいイメージを想像しがちですが、そんなことはありません！

オーバーツーリズムの対策や、部活動における体罰問題の実態分析など、身近な社会問題に対して行政の視点から解決策を提言することを目標としています。上村先生は総務省のご出身ということもあり、行政に携わった経験から様々な知見をご教授くださっています。

現在の在籍学生は3期・4期目となる、4年生と3年生それぞれ20名ずつです。男女のバランスもほぼ半々で、和気あいあいとした雰囲気で活動を行っています。

本年度は新型コロナウイルスの影響で対面講義がほとんど出来ませんでしたが、そういった状況下で新たなゼミナールのあるべき姿を模索しながら活動しています。最近ではZoom等を活用し、オンラインで研究発表やディスカッションを行うなど新たな取り組みにもチャレンジしています。

今後もより良いゼミナールを実現するべく、新しいことにチャレンジしていく姿勢を大切にしていく所存です！

（坂 勇佑　第3期ゼミ長）

日本大学法学部校友会
日本大学法学部 共催

資格試験合格者褒賞制度

令和元年度エントリー数·合格者数&
令和2年度エントリー数

資格名	令和元年		令和2年
	エントリー数	合格者数	エントリー数
①司法試験	2	0	11
②司法試験予備試験	14	1	29
③弁理士	5	2	5
④税理士	7	2	12
⑤公認会計士	11	1	13
⑥司法書士	7	0	9
⑦土地家屋調査士	2	0	3
⑧社会保険労務士	10	0	12
⑨行政書士	62	3	77
⑩宅地建物取引士	223	15	215
⑪日商簿記検定1級	160	0	26
⑪日商簿記検定2級		25	153
⑪日商簿記検定3級		—	126
⑫秘書技能検定1級	265	0	14
⑫秘書技能検定準1級		53	50
⑫秘書技能検定2級		118	103
⑬ファイナンシャル·プランニング技能士2級	66	17	74
⑭知的財産管理技能検定2級	22	2	25
⑭知的財産管理技能検定3級		12	34
⑮法学検定アドバンスト〈上級〉コース	9	1	7
⑯国家公務員採用試験	73	15	115
⑰対象地方公務員採用試験	98	16	161
⑱応用情報技術者	8	2	8
⑲基本情報技術者	12	1	28
⑳外国語検定試験	157	7	543
合 計	1,213	293	1,853

令和元年は、1,213名の登録があり、293名が合格しました。今年は新型コロナウイルスの影響により、表彰式は行わず、合格者に図書カードと記念品を郵送します。

令和2年より、簿記3級、英検2級など資格試験の導入として合格率が高い資格を追加したため、エントリー数が大幅に増えました。

※例年掲載しておりました司法試験合格者につきましては、新型コロナウイルスの影響により発表の時期が変更になったため、掲載を見送りました。後日ホームページ上で発表する予定です。

平成31年度会計収支決算報告書

（自：平成31年4月1日～至：令和2年3月31日）　単位：円

	科目	予算額	決算額	増減
収入の部	会費登録料収入	0	140,000	140,000
	交付金収入	28,100,000	30,156,000	2,056,000
	広告料収入	250,000	370,000	120,000
	預金利息収入	150	170	20
	懇親会収入	1,000,000	1,137,000	137,000
	その他収入	0	0	0
	当年度収入合計	29,350,150	31,803,170	2,453,020
	前年度繰越金	15,211,329	15,211,329	0
	収入合計	44,561,479	47,014,499	2,453,020
支出の部	通信費	210,000	187,789	△ 22,211
	旅費交通費	200,000	72,620	△ 127,380
	会報発行費	3,700,000	3,605,800	△ 94,200
	総会懇親会費	3,000,000	2,396,806	△ 603,194
	ホームページ保守	1200,000	1,156,400	△ 43,600
	その他行事費	300,000	269,720	△ 30,280
	慶弔·渉外費	1,200,000	935,900	△ 264,100
	事務局諸経費	4,200,000	3,926,738	△ 273,262
	奨学金費用	4,500,000	3,240,000	△ 1,260,000
	支援支出	18,967,000	16,436,998	△ 2,530,002
	予備費	1,200,000	0	△ 1,200,000
	本部校友会負担金	470,000	500,000	30,000
	資産運用支出	0	0	0
	支部支援金	800,000	400,000	△ 400,000
	当年度支出合計	39,947,000	33,128,771	△ 6,818,229
	次年度繰越金	4,614,479	13,885,728	9,271,249
	支出合計	44,561,479	47,014,499	2,453,020

令和2年度収支予算書（案）

（自：令和2年4月1日～至：令和3年3月31日）　単位：円

	科目	前年度実績	予算額	増減
収入の部	会費登録料収入	140,000	0	▲ 140,000
	交付金収入	30,156,000	27,470,000	▲ 2,686,000
	広告料収入	370,000	280,000	▲ 90,000
	預金利息収入	170	100	▲ 70
	懇親会収入	1,137,000	0	▲ 1,137,000
	その他収入	0	5,000,000	5,000,000
	当年度収入合計	31,803,170	32,750,100	946,930
	前年度繰越金	15,211,329	13,885,728	▲ 1,325,601
	収入合計	47,014,499	46,635,828	▲ 378,671
支出の部	通信費	187,789	210,000	22,211
	旅費交通費	72,620	160,000	87,380
	会報発行費	3,605,800	3,650,000	44,200
	総会懇親会費	2,396,806	1,000,000	△ 1,396,806
	ホームページ保守	1,156,400	350,000	△ 806,400
	その他行事費	269,720	350,000	80,280
	慶弔·渉外費	935,900	1,100,000	164,100
	事務局諸経費	3,926,738	4,500,000	573,262
	奨学金費用	3,240,000	12,480,000	9,240,000
	支援支出	16,436,998	16,347,000	△ 89,998
	予備費	0	5,000,000	5,000,000
	本部校友会負担金	500,000	500,000	0
	資産運用支出	0	0	0
	支部支援金	400,000	800,000	400,000
	当年度支出合計	33,128,771	46,447,000	13,318,229
	次年度繰越金	13,885,728	188,828	▲ 13,696,900
	支出合計	47,014,499	46,635,828	△ 378,671

安心と安全を提供する警備会社

笑顔とまごころの警備で地域社会に貢献しています!
日大出身者が多数ご活躍しています!

SMILE&SECURITY

株式会社トスネット

代表取締役会長　佐藤 康廣（昭和43年卒）

事業内容　警備事業
（施設警備／交通誘導警備／雑踏警備／イベント警備／列車見張警備／防犯機材の販売、設置）

本　社　〒983-0045　宮城県仙台市宮城野区宮城野一丁目10番1号
TEL（022）299-5761　FAX（022）299-5874
URL：https://www.tosnet.co.jp/

《グループ会社》

◆警備事業（14社）

株式会社アーバン警備保障	（本社:札幌市）
北日本警備株式会社	（本社:札幌市）
株式会社トスネット北東北	（本社:盛岡市）
株式会社大盛警備保障	（本社:盛岡市）
株式会社トスネット南東北	（本社:郡山市）
アサヒガード株式会社	（本社:郡山市）
株式会社トスネット上信越	（本社:新潟市）
株式会社トスネット北陸	（本社:金沢市）
株式会社トスネット茨城	（本社:水戸市）
株式会社トスネット首都圏	（本社:江東区）
株式会社三洋警備保障	（本社:世田谷区）
株式会社日本保安	（本社:千葉市）
株式会社エイコー	（本社:横須賀市）
株式会社トスネット琉球	（本社:那覇市）

◆ビルメンテナンス事業·人材派遣事業（1社）

株式会社ビルキャスト　（本社:仙台市）

◆電源供給事業（1社）

ICCインターナショナル株式会社　（本社:札幌市）

◆メーリングサービス事業（1社）

株式会社メーリングジャパン　（本社:仙台市）

◆警備事業

◆電源供給事業

◆メーリングサービス事業

幹部候補　社員募集中

参議院議員
山崎正昭
（昭和四十年　政治経済学科卒）
〒100-8962 東京都千代田区永田町二―一―一
参議院議員会館二〇二号室
電話（〇三）六五〇―一二〇一

衆議院議員
江渡聡徳（えど あきのり）
（昭和五十六年　大学院法学研究科博士前期課程修了）
〒100-8982 東京都千代田区永田町二―一―二
衆議院第二議員会館一〇二一号室
電話（〇三）三五〇八―七〇九六
FAX（〇三）三五〇八―三九六一

株式会社トスネット
代表取締役会長
佐藤康廣
（昭和四十三年　経営法学科卒）
〒983-0045 宮城県仙台市宮城野区宮城野一―十一―一
電話（〇二二）二九九―五七六一
FAX（〇二二）二九九―五八七四
www.tosnet.co.jp

日本大学法学部校友会
会長
廣田健史
（昭和四十六年　経営法学科卒）
〒101-8375 千代田区神田三崎町二―三―一
電　話（〇三）三二六一―九二七四
FAX（〇三）三二六一―三五六七

日本大学法学部校友会
幹事長
上村英生
（平成六年　経営法学科卒）
〒101-8375 千代田区神田三崎町二―三―一
電　話（〇三）三二六一―九二七四
FAX（〇三）三二六一―三五六七

日本大学法学部校友会
常任顧問
竹井哲也
（昭和三十年　政治経済学科卒）
〒101-8375 東京都千代田区神田三崎町二―三―一
日本大学法学部内
電話（〇三）三二六一―九二七四

日本大学法学部校友会
常任顧問
中村克夫
（昭和四十九年　管理行政学科卒）
〒101-8375 千代田区神田三崎町二―三―一
電　話（〇三）三二六一―九二七四
FAX（〇三）三二六一―三五六七

有限会社テクノ・キャスト
代表取締役
柴田幸彦
（昭和四十九年　管理行政学科卒）
〒989-6143 宮城県大崎市古川中里四―十三―一
電話（〇二九二）三二―四一
FAX（〇二九二）二四―四四
https://www.tecno-cast.jp

みゆき司法書士事務所
所長／司法書士／行政書士
（簡裁代理権認定 第二〇一一七号）
浅野みゆき
（昭和五十六年　法律学科卒）
〒150-0001 東京都渋谷区神宮前四―十九―八
アローブラザ原宿二一五号
電話（〇三）三四〇四―六一〇三
FAX（〇三）三四〇四―六三〇五
https://e-miyuki.com/

瑞宝双光章（平成26年春叙勲）
日本大学法学部校友会
常任幹事
宇藤潔
（昭和四十二年　政治経済学科卒）
〒002-0855 北海道札幌市北区屯田五条十丁目一―十一―二〇三
電話・FAX（〇二）七六九―九五五五

学校法人智香寺学園 理事長
埼玉工業大学
正智深谷高等学校
松川聖業
（平成六年　経営法学科卒）
〒369-0293 埼玉県深谷市普済寺一六九〇
電話（〇四八）五八五―六八〇五
FAX（〇四八）五八五―六八九九

齋藤総合法律事務所
弁護士
坂井愛
（平成十年　法律学科卒）
〒150-0022 東京都渋谷区恵比寿南一―一―十二
フロンティア恵比寿六階
電話（〇三）五七二一―三八二五
FAX（〇三）五七二一―三八二六

文京特許事務所
代表弁理士
笹川拓
（平成十一年　法律学科卒）
〒113-0033 東京都文京区本郷一―二十五―一四
ベルスクエア本郷五階
電話（〇三）六八〇一―五九〇四
FAX（〇三）六八〇一―五九一二
http://www.bunkyo-pat.com

経済困窮学生対象の特別支援金を寄付しました

新型コロナウイルスの影響により、経済的に困窮している学生への特別支援金として、法学部校友会より一千万円を法学部へ寄付しました。七月十日（金）、法学部学部長室において、廣田会長から小田学部長に目録が授与されました。特別支援金は、法学部校友会奨学金として学生に給付される予定になっています。

GO TO ニチホウ応援キャンペーン

「GO TOニチホウ」は、法学部と法学部校友会が、ホテル・ゲストハウスの方々との特別協賛で行う学生応援キャンペーンです。コロナウイルスの影響で地方に帰省している学生が、対面授業、ゼミ、研究発表、各種試験、就職活動などで東京近郊に宿泊が必要になった際の利用を支援していきます。

【期　間】令和2年10月1日～令和3年3月31日まで
【新型コロナウイルス対応】各ホテル・ゲストハウスでは万全な新型コロナウイルス対策を行っており、安心して宿泊ができます。
【宿泊条件】日本大学法学部の学生、法学部校友会は1泊1,000円で連泊10,000円まで補助します。
【宿泊方法】
インターネットでホテル・ゲストハウスの宿泊サイトから申し込み、もしくは電話でも申し込みができます。
予約時に日本大学法学部の学生である事を申し出てください。チェックイン時に日本大学法学部学生証を提示してください。
その際、校友会補助金申請の為、日本大学法学部学生証をコピーさせていただきます。
詳細は「日本大学法学部校友会」のホームページをご覧ください。

マスコミセミナーが初めてオンラインで開催されました。

9月26日（土）、「第14回　日本大学法学部マスコミ・メディア就活セミナー」が学生によって初めてオンラインで開催されました。今年は、新型コロナウイルス感染拡大防止を考慮して、ZoomとYouTubeを組み合わせて実施し、343名の参加者がありました。
第1部は、業界の最前線で活躍する本学卒業生による質問討論が行われました。新聞業界・出版業界・エンタテインメント業界・広告業界・放送業界から多くの卒業生が参加しました。第2部は、新卒者と内定者6名による質問討論会が行われました。参加者からは「現在大学に通えない状況で、就職に対してどのような考えを持てばいいか不安でしたが、先輩方のアドバイスを聞いて、やるべきことが明確になってきました」といった感想が聞かれました。

法学部校友会 役員紹介

会　長	廣田健史
副会長	有吉 眞　柴田幸彦　鳥飼廣志　浅野みゆき
幹事長	上村英生
副幹事長	松川聖業　木村洋一郎　庄司芳香
常任顧問	今村忠雄　竹井哲也　中村克夫
特別顧問	杉本 稔
常任幹事	宇藤 潔　川上俊明　平岩幸男　山田正博　岸 伸光 野村邦夫　野村吉太郎　伊藤修一　宇田隆康 中村光宏　清水恵介　清家 愛　笹川 拓 川松真一朗　小松崎恵介　猪野恭典　大内倫彦 舘石浩二　川口 崇　内倉厚一郎
監　査	水町栄治　坂井 愛
幹　事	塩澤和馬　小林幸雄　柴田秀一　生方朋子 橋本純一　菅野もえ　松嶋舞花　上田桃子　森雪乃

2020年 法学部校友会活動記録

1/20	定例常任幹事会
1/30	第6回 第2種奨学金授与式
2/9	第13回 OB・OG就活セミナー
2/10	定例常任幹事会
3/25	卒業記念祝賀会（ホテルグランドパレス）→中止 卒業記念品贈呈（名刺入れ）
4月	神田三崎町キャンパス事業（経済学部との協同事業） 白山通りの街路灯に入学お祝いのフラッグを設置
6/16	定例常任幹事会
6/27	総会（法学部本館第一会議室）※14頁参照
9/7	定例常任幹事会
9/28	第14回 マスコミ・メディア就活セミナー
10/19	定例常任幹事会
10月	第43回 法律討論会→中止
11/24	定例常任幹事会
11月	第7回 ホームカミングデー→中止
12月	無料法律相談会→中止